

～^{えきれい}驛鈴がつなぐ^{ふるとしげはる}松阪市と^{いわみのくに}鳥根県^{てんぼう}浜田市～

第4代松坂城主であった古田重治公が、今から400年前の1619年に石見国浜田に転封され初代藩主となりました。また、浜田の第12代藩主の松平康定公が、松坂の国学者本居宣長翁に贈った「驛鈴」は、現在もお松阪市のシンボルとして市民に親しまれています。このように、松阪市と浜田市は古くから歴史的なご縁を持っています。そのご縁から交流が始まり、平成28年4月2日には「驛鈴で結ぶ松阪市・浜田市 観光・文化交流協定」が締結され、両市の絆はより深いものとなりました。

【長浜神楽社中の紹介】

長浜社中は、明治中期に長浜天満宮41代神主、牛尾吉親氏により指導を受けて、長浜神楽の基礎を築いたと伝えられています。戦前、戦後を通じて石見神楽の中核となり、昭和26年には明治神宮、靖国神社に神楽奉納し、昭和29年に校定石見神楽台本を作成しました。

近年も太宰府天満宮、国立劇場、熱田神宮に神楽奉納を行い、今日まで先人から脈々と受け継がれてきた長浜神楽を後世に伝承するため、日々練習に励み、地元神社の神楽奉納をはじめ、各種イベント等に出演しながら活動しています。

【^{かしま}鹿島】^{たかまのはら}高天原から降り立った^{ふつぬしのみこと}経津主命・^{たけみかづちのみこと}武甕槌命が、^{おおくにぬしのみこと}大国主命に出雲の国を譲る様に談判すると、大国主命は「自分は応じるが、二人の息子の承諾を得るように」と言いました。第一の王子・^{ことしるぬしのみこと}事代主命は承諾しましたが、第二の王子・^{たけみなかたのみこと}建御名方命は承諾せず、^{たかまのはら}高天原の神たちと力くらべを行います。敗れた^{たけみなかたのみこと}建御名方命は信濃の諏訪まで逃げましたが、降参して国を譲りました。



【^{じんりん}塵輪】第14代の帝・^{ちゆうあい}仲哀天皇の頃、異国より数万騎の軍勢が日本へ攻めてきました。その中に、体に翼があり、黒雲に乗って飛び回り人々を害する「^{じんりん}塵輪」という悪鬼がいると聞き、仲哀天皇は隨身の高麻呂を引き連れ、自ら^{あめ}「天の鹿兎弓」「^{あめ}天の羽々矢」を用い、激闘の末に塵輪を退治します。



【^{えびす}恵比須】松江市美保関町にある美保神社の御祭神で、漁業、高業の守護神として崇拝されている^{ことしるぬしのみこと}事代主命（^{おおくにぬしのみこと}恵比須様）は、^{おおくにぬしのみこと}大国主命（大黒様）の第一の皇子でとても釣りの好きな神様でした。その鯛釣りの様子を舞ったもので、鯛を釣り上げ寿福を躡すという大変おめでたい演目です。



【^{おろち}大蛇】悪業のため^{たかまのはら}高天原を遁われた^{すさのおのみこと}須佐之男命が出雲の国^ひ雙の川にさしかかると、老夫婦が嘆き悲しんでいました。詠を尋ねると、夫婦には8人の娘がいましたが、巨大な怪物の^{やまたのおろち}八岐大蛇が毎年あらわれて、7年に7人の娘をとられ、最後の1人も取られる運命にあるといます。須佐之男命は、大蛇退治を約束し、毒酒を作らせ、これを大蛇が飲んで酔った所を退治しました。この時、大蛇の尾から出た剣は、^{くさなぎ}天の村雲の剣（のちの草薙の剣）として^{あまてらすおおみかみ}天照皇大神に献上され、三種の神器の一つとして熱田神宮に祀られています。須佐之男命は助けた娘、^{くしなだひめ}奇稲田姫と結婚しました。

